

第七回 家村中佐の兵法講座

平成二十四年十二月八日

火攻篇

火攻めの戦法↓強大な破壊力↓戦争に対する慎重さの必要性

一 孫子曰わく、凡そ火攻に五あり。

- ① 火人 Ⅱ 兵営に居る兵士(Ⅱ 戦闘中でない敵兵)を焼き殺す
- ② 火積 Ⅱ 集積された糧秣を焼く
- ③ 火輜 Ⅱ 移動中の輜重車列を焼く
- ④ 火庫 Ⅱ 倉庫内にある軍需品を焼く
- ⑤ 火隊 Ⅱ 隊伍・備だて(Ⅱ 戦闘中の敵部隊)を乱す

↑ ↓ 火墜 Ⅱ 敵の通り道、橋梁などを焼く…(目的)敵の進軍を妨害する

火を行なうには因あり、因(煙火)は必ず素より具う

火攻め成功の条件

- ① 内応者、破壊工作員
- ② 燃料・引火物、着火具(Ⅱ 煙火)
- ③ 乾燥、強風

二 凡そ火攻は、必ず五火の変に因りてこれに應ず。

「変」Ⅱ 敵中の内通者による攪乱工作

「必ず…これに應ず」 ↓ 「火」は助、「兵」が主

凡そ軍は必ず五火の変あることを知り、数を以てこれを守る。

数 Ⅱ 技術+術策

技術 Ⅱ 必ず決まった効果をもたらす一定した技

術策 Ⅱ 都合のよい条件を考え合わせた臨機の策

三 火を以て攻を佐くる者は明なり。水を以て攻を佐くる者は強なり。

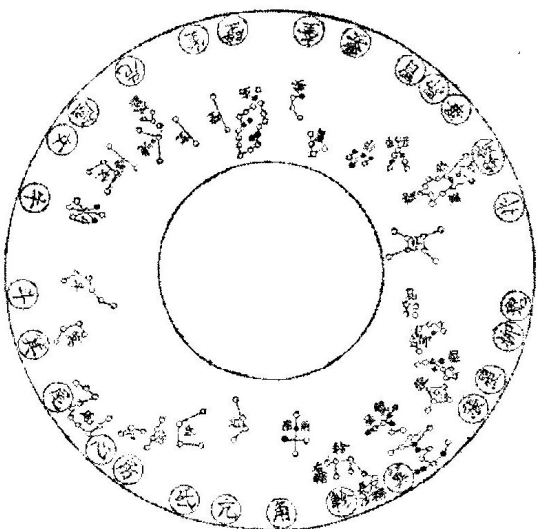
火攻め…殺傷力が大Ⅱ 効率的 ↑ ↓ 水攻め…膨大な準備に比し殺傷力小Ⅱ 非効率

四 夫れ戦勝攻取して其の功を修めざる者は凶なり。命けて費留と曰う。…
利に非ざれば動かず、得るに非ざれば用いず、危うきに非ざれば戦わす。

戦術的(局地的)戦果が戦略全体に占める地位・役割 ↓ 目的と目標の関係

主は怒りを以て師を興こすべからず。将は愠りを以て戦いを致すべからず。
戦争の三大原因 Ⅱ ① 恐怖 ② 憤怒 ③ 憎悪 ↓ 対象の破壊を希望する衝動

二十八宿の図



人間の好戦的本能

【闘戦経】第五十二章 用兵の本義…兵の本は禍患を杜ぐにあり(一八四頁)

戦争と道德の矛盾を「抑止」により調和 ↑ 剛毅・真銳の軍

用間篇 諜報活動により、敵の実情を事前に察知

一 爵禄百金を愛んで敵の情を知らざる者は、不仁の至りなり。

明主賢將の動きて人に勝ち、成功の衆に出ずる所以の者は、先知なり、…
必ず人に取りて敵の情を知る者なり。

近代国家における平時の諜報機関

日露戦争における日本軍の特務機関

二 間を用うるに五あり。郷間あり。内間あり。反間あり。死間あり。生間あり。

五間俱に起つて其の道を知る事莫し、是れを神紀と謂う。

紀ニ系すじを正し治める ↓ 情報の伝達や司令の系統が整理されている

① 郷間ニ 敵側の人間(民間)を味方にする情報収集

② 内間ニ 敵側の人間(役人)を味方にする情報収集

③ 反間ニ 敵側の人間(間諜)を味方にする情報収集ニ 二重スパイ

④ 死間ニ 自国に仕える諜報員による謀略活動

⑤ 生間ニ 自国に仕える諜報員による情報収集

事機(呉子)ニ 内部崩壊や離反を目的とした謀略

計篇 故にこれを校ぶるに計を以てして其の情を索む。(二七頁)

七計(主將・天地・法令・兵衆・士卒・賞罰)

三 聖智に非ざれば間を用うること能わず、仁義に非ざれば間を使うこと能わず、
微妙に非ざれば間の実を得ること能わず。

人間存在全般にわたる深い洞察力と幅広い教養ニ 最高の智力

↓ 複雑に錯綜した情報の中から、価値ある情報を嗅ぎ分け、その意味するところを察知
インフォメーション(情報資料)とインテリジェンス(情報)

四 吾が間をして必らず索めてこれを知らしむ。

姓名 ↓ 過去の履歴、性癖、境遇や対人関係 ↓ 内通・内応の糸口を引き出す

【闘戦経】第三十三章 心の隙を見せるな(二七頁)

五 必ず敵人の間を索し、来たつて我れを問する者、困りてこれを利し、導きてこれを舍せしむ。

ス、パイを見抜く…困難であるが絶対的必要

五間の事は主必ずこれを知る。これを知るは必ず反間に在り。

六 惟だ明主賢将のみ能く上智を以て問者と為して必ず大功を成す。

此れ兵の要にして、三軍の待みて動く所なり。

《用間の最大要務》

彼我の国力や戦力を先知↓その力の程度に応じて

- ① 戦わずして敵を屈し、
- ② 戦えば必ず勝ち、
- ③ 負ける戦を起ささない

孫子と闘戦経(総括)

【闘戦経】

孫子の構成

計 篇 開戦に先立ち、我と敵の状況を比較し、勝算を熟慮

五事七計⇨常経(体)⇨詭道⇨奇変(用)

作戦篇 戦争が経済にもたらす影響、軍の兵站と軍費

謀攻篇 武力戦(実際に武力を行使する戦)によらず、謀りごとによって敵を攻略

形 篇 敵が我に勝てない態勢 ⇨ 我が敵に勝てる態勢

勢 篇 機に乗じ時に応じて生ずる「軍の本然の勢い」に

まかせて士卒を戦わせる

虚实篇 実(充実・十分な備え)をもつて

虚(空虚・心の隙・不十分な備え)を撃つ

軍争篇 敵と我が相対して先制・主動の利を争う戦術・戦法

「其の鋭気を避けて其の情帰を撃つ」

「鋭卒には攻むる」と勿かれ」

九変篇 九種類の臨機応変の対処法

行軍篇 軍の進止・布陣、敵情偵察など

地形篇 戦いの不変要素(地形)と可変要素(人)の道理

九地篇 九とおりの土地の形勢に応じた戦い方など

火攻篇 火攻めの強大な破壊力 ↓ 戦争に対する慎重さ

用間篇 諜報活動により、敵の実情を事前に察知

戦争の要であり、全軍がそれによって行動

第五章 剛毅

第八章 詭譎と真鋭

「漢の文は詭譎あり、倭の教は真鋭を説く」

第九章 正々堂々とよく戦う

第十一章 過ぎたるは及ばざるに如かず

第十二章 死生観

第十三章 懼れと覚悟

「孫子十三篇、懼れの字を免れざるなり」

第十四章 最期まで意気盛んであれ

第十七章 大軍の運用は進止のみ

(奇正なし)

第十八章 鋭気と威厳(兵者は稜を用ふ)

第二十章 立派な軍隊の条件

「將に胆有りて軍に踵無きものは善なり」

第二十一章 蝮蛇の毒を生ず

第二十三章 呉子は概ね常道を説く

第二十五章 威を懼れて罰を懼れず(威徳)

第二十八章 鋭気は人の根本

第三十章 整毒の一手

第三十三章 心の隙を見せるな

第三十九章 戦場には仁義も常理もない

第四十章 兵の根本は剛に在り

第四十二章 勢いで勝つか、力で勝つか

第四十三章 速やかに敵の恃むところを討つ

第四十四章 寡兵をもつて大敵を討つ

第四十五章 智なき勇と勇なき智を戒める

第四十七章 勝敗は神氣の張弛による

第五二章 用兵の本義

「兵の本は禍患を杜ぐにあり」

第五三章

「用兵の神妙は虚無に墮ちざるなり」